

society&business Tokyo25 journal

25 journal

執筆協力 編集室システムU okamura.nobuyoshi@gmail.com



■左のQRコードで東京25ジャーナルにアクセスできます。

自民党「都市農業研究会」 新会長に井上衆院議員

自民党「都市農業研究会」が2月18日、千



新会長に就任し、研究会をけん引する井上衆院議員

生産緑地2022年問題 払しょくの見通し

代田区永田町の同党本部で開かれ、新会長と

員は改めて都市農業振

このため政府は15年

を見直し、同年に都市

農地の貸借の円滑化に

では、出席議員の意見

発電を認めるかについて、

興に決意を示した。会議では「生産緑地の2022年問題」は懸念が払しょくされつつあるとの見通しや営農型太陽光発電の可否について議論した。

2022年問題は、同年に多くの生産緑地が30年の期限を迎え、指定解除が相次ぐことで極端な地価下落を招く恐れがあるというも

に都市農業振興基本法を改正。指定要件などを緩和し、翌年には都市農業振興基本計画を閣議決定し、都市農地は、これまでの「宅地化すべきもの」から都市に「あるべきもの」へと明確化。具体策として、17年に都市緑地法等の一部を改正する法律を成立。18年度税制改正で都市農地税制

に関する法律を成立させた。会議では、こうした改正が功を奏し、現時点で都内の86%の農地が引き続き生産緑地の指定を受ける意向を示していることが報告された。

一方、生産緑地の上(上空)に太陽光発電設備を設け、農業と発電を行う営農型太陽光

の違いがあり、井上会長の采配で、論点を明確化したうえで継続して議論していくことを確認した。

井上会長は「石原伸晃前会長の後を継いで会長に就任した。私の地元、西多摩と昭島は都内で最も農業が盛んな地域であり、私も従来から都市農業の振興に力を入れてきた。メンバーの国会議員や農業者、農業団体の皆さんとも協力して、都市の農業を守り、育てるため頑張っていく」と話した。



坂本J Aあきがわ組合長

市街地の農地 あるべき土地へ

自民党都市農業研究会の活動に期待

坂本勇J Aあきがわ代表理事組合長のコメント

「2015年4月に

議員立法による都市農業振興基本法が成立し、都市における緑地の大切さや、東日本大震災を機に防災面での

必要が見直され、都市農地の保全への関心が高まっている。市街地の農地はかつての宅地の供給源から今はあるべき土地へと行政の政策転換が進んだ。生産緑地法の改正、都市農地の貸借の円滑化に関する法律の施行で、生産緑地はこれまでの500平方メートル以上から300平方メートル以上に指

学会会長の「壺草苑」物語

天然藍染の美しさ——明治初期、日本を訪れたイギリスの科学者は「ジャパンブルー」と称賛したという。その文化を現代に伝える村田染工の村田敏行社長は、会長で父親の博氏が手がけた藍染の経緯を次のように語る。

「当社は創業からずっと化学染料を使用していた。しかし、3代目に当たる父が1989年に別部門として藍染工房・壺草苑を立ち

上げた。自然から採れる原料のみを用いる方法で糸や生地を染め、自社製品も作った」

創業は大正8年(1919)。当時は地場産業である青梅夜具地と呼ばれる布団地の生産が盛んになりはじめた時期。とりわけ戦後は全国シェアが50%を超えたともいわれ、その一翼を担った村田染工も順調に業績を伸ばす。

「1950年生まれの父は、中央大学理工学部に入学。工業化学科(現応用化学科)で染色を研究し、青梅に戻って家業を継いだ。どちらかといえば学者肌の経営者。おそらく、そんな父でなければ伝統

70年代になると、石油危機をきっかけに繊維不況が本格化。やがて中国や東南アジアからの輸入品との競争が追い打ちをかける。村田染工も取引先が相次いで倒産。旧来のやり方ではギリ貧が目に見えていた。もし壺草苑がなければ事業継続の危機を迎えていたかも

技術ともいへば藍染の発想は出てこなかったと思う」

は藍染だけに絞り込むことを意思決定。20年には創業以来稼働していた工場を閉鎖していた。村田社長自身は東京理科大学経営学部に進学。卒業後は人材コンサルタントに磨きをかけた。21年1月には社長に就任。会長とはひと味違ったマーケティング戦略で壺草苑ブランドの普及、販売チャネルの拡大をめざす。

(岡村繁雄)



父の背中

先代の仕事と教え

「1950年生まれの父は、中央大学理工学部に入学。工業化学科(現応用化学科)で染色を研究し、青梅に戻って家業を継いだ。どちらかといえば学者肌の経営者。おそらく、そんな父でなければ伝統

70年代になると、石油危機をきっかけに繊維不況が本格化。やがて中国や東南アジアからの輸入品との競争が追い打ちをかける。村田染工も取引先が相次いで倒産。旧来のやり方ではギリ貧が目に見えていた。もし壺草苑がなければ事業継続の危機を迎えていたかも

は藍染だけに絞り込むことを意思決定。20年には創業以来稼働していた工場を閉鎖していた。村田社長自身は東京理科大学経営学部に進学。卒業後は人材コンサルタントに磨きをかけた。21年1月には社長に就任。会長とはひと味違ったマーケティング戦略で壺草苑ブランドの普及、販売チャネルの拡大をめざす。

「実際、わたしが入社する2019年は経営状態もかなり厳しかった。既存工場と壺草苑の2本立てで運営していたが、結果的に

黒茶屋

あきる野市小中野167 ☎042-596-0129

令和4年3月の営業
平日: ご昼食のみ営業(11時~15時受付)
土日祝日: ご昼食(11時~15時受付) 夕食(17時~20時受付+21時閉店)
※テイクアウト商品販売は、休業日をのぞく全日11時~16時半まで営業致します

定休日: 毎週火曜日、および水曜日は不定休

壺草苑

あきる野市小川633 ☎042-559-8080

令和4年3月の営業
平日: テイクアウト商品販売のみ営業(11時~17時)
土日祝日: ご昼食のみ営業(11時~15時受付) ※テイクアウト商品販売も致します

定休日: 毎週水曜日、および水曜日は不定休

井中居

青梅市藤橋2-32 ☎0428-30-1661

令和4年3月の営業
平日: テイクアウト商品販売のみ営業(11時~17時)
土日祝日: ご昼食のみ営業(11時~15時受付) ※テイクアウト商品販売も致します

定休日: 毎週火曜日、および水曜日は不定休

黒茶屋グループ(黒茶屋・壺草苑・井中居)では、令和4年3月16日(水)から令和4年4月15日(金)までの間、上記の通りの内容にて営業致します。
※営業内容は変更なる場合があります。
お越しの際はホームページの電話をご確認ください。